

(1日本史プリント4-2)

第5章 2,幕府の衰退と庶民の台頭 a. 幕府の動揺と応仁の乱

①義満の政治…[1 守護大名]をおさえる

土岐氏を討伐 明德の乱(→山名氏) 応永の乱(→大内氏)

將軍職を辞した後、[2 太政大臣]となる→次男を天皇の地位に就けようとした…?

→日明貿易で[3 日本国王]と自称する

②4代將軍[4 義持]の政治=[5 義満]の政策を否定。守護大名との[6 勢力均衡]をはかる。

③6代 義教の政治…將軍による[7 専制]政治をめざし、守護大名を弾圧(「万人恐怖ス」)

ア)永享の乱(1438~39)=[8 関東公方]の足利持氏を倒す

イ)[9 嘉吉]の変(1441)=守護大名 赤松満祐、10 義教を殺害、播磨へ逃れる

→この直後、[11 嘉吉の土一揆]が発生

④応仁の乱

ア、原因

・將軍(8代[12 義政])家(実子[13 義尚]=日野富子←→弟・養子[14 義視])の後継者争い

・[15 管領]家(畠山、斯波家)の相続争い←幕府が後継争いに介入

・有力守護大名[16 細川勝元]と[17 山名持豊]の対立

イ、1467年 京都を舞台に対立・抗争→[18 足輕の横暴]=略奪・放火などにより京都衰退

1477年 勝敗の定まらないまま、和議が成立し、終戦

→以後、19 地方での争いに発展

→[20 守護代]・有力国人などが守護大名に反旗

→守護領国制の崩壊=[21 戦国時代]へ

ウ、結果

[22 京都]の町焼失→[23 貴族ら]、地方へ逃れる=文化の地方波及

[24 荘園]制の崩壊→武士の侵略激化

[25 將軍家]の権威低下=支配地は山城一国となる

[26 守護]大名の没落→戦国大名の台頭([27 下剋上]の風潮)

⑤国人一揆の発生、一般農民をも巻き込む

ア)1485~[28 山城の国一揆]=国人が民衆の支持のもとに自治的支配を実現

イ)1488 [29 加賀の一向一揆]=守護をたおし加賀(現在の[30 石川]県南部)一国を支配

* 一向一揆=[31 蓮如]の布教をきっかけに、[32 惣村]の組織化を通して、急速に勢力を伸ばした[[33 浄土真]宗(一向宗)の信者が、国人らを中心にして起こした一揆。加賀では約百年にわたって、一国を支配した。

義満のあとを継いだ將軍足利[34 義持]の時代は、將軍と有力守護の勢力均衡が保たれ、比較的安定していた。しかし、6代將軍[35 義教]は、1439年、幕府に反抗的な[36 関東公方]足利持氏を[37 永享の乱]で討ち滅ぼし、さらに將軍権力の強化をねらって有力守護を弾圧したため、1441年義教は有力守護[38 赤松満祐]に殺害された。([39 嘉吉の乱])

將軍権力の弱体化にともなって有力守護家や將軍家にあいついで内紛がおこった。畠山・斯波の両管領家の家督争い、將軍家における8代將軍[40 足利義政]の後継者とされた弟義視と、將軍の実子[41 義尚]を即位させようとする將軍の妻[42 日野富子]とのあいだで家督争い、こうした対立に、幕府の実権をにぎろうとして争っていた[43 細川勝元]と[44 山名持豊]の争いが結びつき、1467年[45 応仁の乱]がはじまった。守護大名はそれぞれ東西両軍に分かれて戦った。戦いでは、軽装で機動力に富む[46 足輕]らが多く用いられたが、彼らが放火や略奪行為などを繰り返したこともあって、主戦場となった京都は荒廃していった。

守護大名が京都で戦いをくり返していたころ、守護大名の領国では、在国して戦った[47 守護代]や有力国人が力をのばし、領国支配の実権はしだいに彼らに移っていった。また地方の国人たちは、この混乱のなかで自分たちの権益を守ろうとして、しばしば[48 国人一揆]を結成した。1485年、南山城地方で両派に分かれて争っていた畠山氏の軍を国外に退去させた[49 山城の国一揆]は、山城の住民の支持を得て、8年間にわたり一揆の自治的支配を実現した。このように、下のものの力が上のものの勢力をしのいでいく現象がこの時代の特徴であり、これを[50 下剋上]と叫ぶ。

1488年におこった[51 加賀の一向一揆]もその一つのあらわれであった。この一揆は、本願寺の[52 蓮如]の布教によって近畿・東海・北陸に広まった[53 浄土真]宗の信者(門徒)勢力を背景とし、国人と手を結び、守護を倒したもので、一揆が実質的に支配する本願寺領国が、以後、織田信長に制圧されるまで、1世紀にわたって続いた。

b. 農業・商工業の発達

①農業生産力の向上=[54 集約]化,[55 多角]化の方向へ

↓

[56 灌漑]や排水施設の整備・改善、[57 肥料]の使用(刈敷・草木灰・[58 下肥])

=地味向上・収穫安定化

[59 二毛作]の全国化(畿内では[60 三毛作])、米の品種改良(自然条件に適した作柄に)

[61 手工業原料](桑・楮・漆・藍・茶など)の栽培の活発化

→農村加工業の発達=絹織物(加賀・[62 丹波])、[63 和紙](美濃・播磨)

農業生産力向上→農民の生活向上

=名主の[64 地主]化、作人の[65 名主]化、[66 下人]の独立

②手工業=特産品の成立←都市の需要や農村の需要

[67 陶器](尾張・美濃)、[68 刀剣](備前)、高級[69 絹織物](京都)、

[70 酒造](京都・河内・大和・摂津)

製塩業の発展